

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	熊本市小学校英語教育研究会
コース	団体研究コース
活動・研究のテーマ	主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1 1日目 令和6年2月2日(金) 公開授業・事後研究会</p> <p>(1)熊本市立出水南小学校 研究テーマ:豊かな学び手が育つ授業の創造～カリキュラム・マネジメントの実現を通して～</p> <p>(2)熊本市立御幸小学校 研究テーマ:対話を通して学びを深める子どもの育成 ～「みんなに話したい」「もっと聞きたい」が生まれる授業づくり～</p> <p>(3)熊本市立麻生田小学校 研究テーマ:麻生田ESDの視点に立ち、自ら考動し、つながり合う子どもの育成 ～英語教育を中心として、コミュニケーション力及び表現力の向上を目指して～</p> <p>① どの学校においても、外国語活動・外国語科の目標で「コミュニケーション能力の素地・基礎の育成」をめざした授業が展開された。特に、英語を用いた必然性のある言語活動を通して、目的・場面・状況に応じた児童の相手意識のある表現の工夫が見られた。</p> <p>② また、これらの言語活動において、ICTを効果的に活用することができた。英語を用いた表現を工夫する過程において、「思考ツール」を活用することで、自分の表現内容をメタ認知し、思いや考えを明確にしながら自己調整する姿につながることができた。</p> <p>③ 評価の方法の工夫については、ルーブリックを活用した評価の充実を図った。評価規準を基にした成果物のルーブリックを児童とともに作成し、学びに向かう手立てとして活用したことが、児童の「主体的に学習に取り組む姿」につながった。</p> <p>2 2日目 令和6年2月3日(土) 全体会・講演会・分科会 熊本城ホール・シビックホール</p> <p>(1)全体会</p> <p>(2)講演 「言語活動の充実と言語活動を通して指導することの具体」 講師 直山 木綿子 氏 文部科学省初等中等教育局視学官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官・学力調査官</p>	

(3)分科会

①第1分科会

【テーマ】言語活動の充実を目指した授業づくりについて

助言者 直山 木綿子 氏

文部科学省初等中等教育局視学官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官・学力調査官

②第2分科会

【テーマ】学校評価の改善と指導の充実について

助言者 前田 康裕 氏

熊本大学大学院教育学研究科特任教授

③第3分科会

【テーマ】小・中連携について

助言者 佐藤 美智子 氏

鳴門教育大学特命准教授

3 研究の成果

- (1) 熊本大会の研究の視点1「単元のゴールとなる言語活動を意識した学習過程の工夫」、視点2「指導に生かす評価の工夫」、視点3「なめらかな接続・連携の工夫」を単元計画や授業に位置付けることで、外国語活動・外国語科の目標に沿った日々の実践が積み重ねられた。また、それらが児童の「コミュニケーションを図る資質・能力の素地・基礎を育てる」ことにつながった。
- (2) 特に、「実際の英語を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合う」活動、すなわち言語活動において、必然性のある言語活動を取り入れたことで、児童自らが意欲的に取り組む授業の創造へつながった。
- (3) 「指導に生かす評価の工夫」としては、児童と共に評価規準を基にしたルーブリックを作成し、それらを児童自らの評価活動に生かすことで、児童のメタ認知能力や粘り強く学習に取り組む姿を育成することができた。
- (4) 熊本市英語教育研究会の実践を、全国の外国語教育に携わるなかまに提案することで、本会の研究の取組についての評価・検証を行った。それらを全会員で省察することで、次の実践へと生かしていきたい（研究のPDCAサイクルの構築）。
- (5) 全国大会の企画・運営を実行委員会という組織で進めていくことを通して、熊本市英語教育研究会の更なる活性化をめざし、ミドル世代の教職員にも「組織で研究を進めていく経験と達成感」を味わえるよう促すことができた。（若手教職員の育成）

4 今後の課題

- (1) 「令和の日本型教育」に位置付けられている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を外国語の授業でも実践し、「主体的で対話的な深い学び」につなげていきたい。
- (2) そのためには、ICTの効果的な活用に引き続き取り組んでいきたい。特に、「実際の英語を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動において、児童が自ら取り組みたくなるようなICTの活用方法を深めていきたい。
- (3) 児童の「主体的に学習に取り組む態度」をめざすために、評価規準を基にしたルーブリックの作成・活用について、更に研究を深めていきたい。また、それらを市内全小学校でも共有することで、熊本市内全体の教職員の授業力向上・実践力向上をめざしたい。